Raffiné Journal vol.01

佇まいの美学
ー静けさは、人を美しくするー

Raffine

美しさは、姿形ではなく
「**その人がまとう“空気”**」に宿る。

佇まいとは、
内側の在り方が外ににじみ出た輪郭。

人は、言葉よりも
“雰囲気”で多くのことを伝えている。

急かすような足取り、
せわしない視線、
落ち着かない呼吸。

それらは、
その人の内側がどんな状態かを
静かに物語っている。

反対に、
ゆっくり息をする
必要なときにだけ言葉を選ぶ
丁寧にものへ触れる

そんな一つひとつの動作は、
内側にある静けさの証。

佇まいとは、その人の人間性がにじみ出た
“輪郭”である。

朝、コップを持つ手つき。
ドアを閉める音。
椅子に腰かけるまでの所作。

速すぎれば粗雑になり、
遅すぎれば過剰に見える。

ちょうどいい速度には、
その人の心の整い方が現れる。

“丁寧”は意識ではなく、
内側の余白が作るもの。

相手の言葉を遮らない。
必要以上に説明しない。
静かな声で返す。

「何を言うか」よりも、
「どう言うか」を大切にする人には、
不思議と安心感がある。

それは、品そのものが
言葉に宿っているから。

高級な服を着なくても、
華やかな場にいなくても、

呼吸を整える時間
部屋を静かに整える習慣
丁寧な所作
言葉の粒を選ぶこと

それは、誰かに見せるための振る舞いではなく、
自分の内側を粗雑に扱わないという態度。

その積み重ねが、
気品のある人をつくっていく。

佇まいは“生まれつき”ではなく、
日々の静かな選択の積み重ね。

品とは、
派手な振る舞いでも、
完璧な正しさでもない。

乱れた心を整えようとする姿勢、
他者を尊重する静けさ、
余白のある言葉選び。

そうした“内側の静けさ”が、
その人の周りに透明な空気をつくる。

佇まいの美学とは、
心の整え方を外側にそっと開くこと。

静けさは　美しい佇まいとなって
今日もあなたを包んでいく ——

R.

Raffiné Journal ― vol.01

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026